

今週の為替相場見通し(2024年9月30日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		142.07 ~ 146.49	142.21	140.00 ~ 145.50
ユーロ	(ドル)		1.1085 ~ 1.1214	1.1166	1.1000 ~ 1.1200
(1ユーロ=)	(円)		158.65 ~ 163.46	158.77	157.00 ~ 162.00
英ポンド	(ドル)		1.3249 ~ 1.3434	1.3372	1.3100 ~ 1.3600
(1英ポンド=)	(円)	*	190.02 ~ 195.97	190.19	182.00 ~ 198.00
豪ドル	(ドル)		0.6799 ~ 0.6937	0.6902	0.6840 ~ 0.7000
(1豪ドル=)	(円)	*	97.63 ~ 100.72	98.16	97.00 ~ 100.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 南野 光喜

(1)今週の予想レンジ: 140.00 ~ 145.50 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

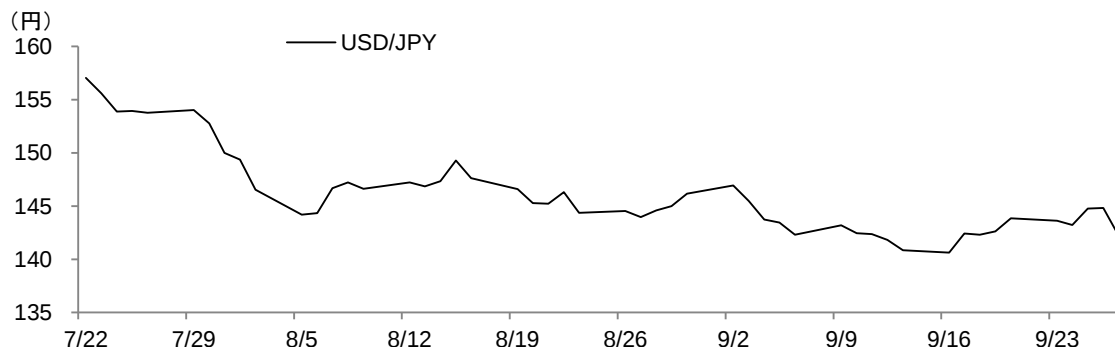
先週のドル/円は週後半にかけて堅調な推移となったが、その後急落した。週初23日、144.10円でオープンしたドル/円は本邦休日の中動意に乏しい展開。アジア株の堅調な推移を背景に一時144円台半ばまで上昇。その後、米国時間に発表された米9月非製造業PMIが市場予想よりも上振れたが、Fed高官のハト派な発言を受けて結局は143円台半ばでクローズ。24日、日本時間に植田日銀総裁が改めて利上げを急がない姿勢を示しドル/円は144円台まで上昇。米国時間に発表された米9月消費者信頼感指数が予想を下回ると、市場はドル売りで反応し、143.40円付近まで下落した。25日、ドル売りの流れが継続し一時142円台後半まで下落したが、その後は目立った材料がない中で米金利上昇を背景にドル/円は144円台後半まで水準を切り上げた。26日、本邦時間に日本株の堅調な推移を横目にドル/円は上昇するも145円ちょうど付近で上値重く推移。良好な米経済指標の結果を背景に一時145.22円まで上昇したがその後144円台後半まで押された。27日、自民党総裁選で高市氏が優勢との見方から円安地合いとなり、一時146円台前半まで上昇。しかし、決選投票の末に石破氏に決定すると143円台まで急落。米国時間では、米8月個人所得及び米8月PCEデフレーターが市場予想比弱い結果となったことを受けてドル売りが加速し、結局142.21円で越週した。

今週のドル/円は、石破氏総裁就任で上値の重い展開が続こうが、米9月雇用統計の結果次第で反転上昇も期待。最大の注目は4日(金)発表の米9月雇用統計で、現状では非農業部門雇用者数が前月比+14.0万人と前月よりやや減少、失業率は4.2%と前月から横ばいが予想されている。毎週発表されている米新規失業保険申請件数を確認すると7月をピークに減少傾向にあり、米雇用統計の改善も期待される。市場予想を上振れた場合、年内▲75bpの利下げ織り込みの後退がドル/円の強い上昇圧力になりそう。一方で、日本サイドに目を向けると先週の総裁選で決選投票の末に石破氏が自民党総裁に決定した。同氏は以前、円安を「円弱」と指摘して利上げに肯定的な考えを主張していたこともあり、現在、円はやや買われやすい状況になっている。週を通して、上値重く推移しながら、米雇用関連指標の結果に振られる展開となりそう。その他今週の主な経済指標・イベントとしては、30日(月)パウエルFRB議長発言、1日(火)日銀主な意見、7~9月期日銀短観、米9月ISM製造業景気指数、3日(木)米9月ISM非製造業景気指数などの公表が予定されている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(9/23~9/27)の値動き:

安値 142.07 円 高値 146.49 円 終値 142.21 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部 為替営業第一チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 1.1000 ~ 1.1200 157.00 ~ 162.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは年初来最高値を更新するなど、底堅く推移した。週初23日、1.1159でオープンしたユーロ/ドルはユーロ圏9月製造業/非製造業PMI(速報)の冴えない結果が重しとなり一時週安値となる1.1085まで急落後、独金利の下げ幅縮小を受け1.11台前半に水準を戻した。24日、ユーロ/ドルは欧州株の堅調推移や軟調な米経済指標を受けた米金利反落が好感され、1.11台後半に上昇した。25日、ユーロ/ドルは独金利上昇を受け年初来最高値となる1.1214に続伸したものの、その後は米経済指標の良好な結果を受けた米金利上昇が重しとなり1.11台前半に反落した。26日、ユーロ/ドルは米経済指標の堅調な結果が重しとなり値を下げる場面もあったが、独金利上昇や欧州株の堅調推移が好感される中で、1.11台後半に上昇した。27日のユーロ/ドルは、1.11台後半での取引が継続していたが、ユーロ/円の下落に連れて1.11台前半に値を切り下げた。その後、NY時間に米経済指標の結果を受けてドル売りが強まると、一時1.12台まで上昇する場面も見られたが、一服後は1.11台後半に小緩んでクローズした。

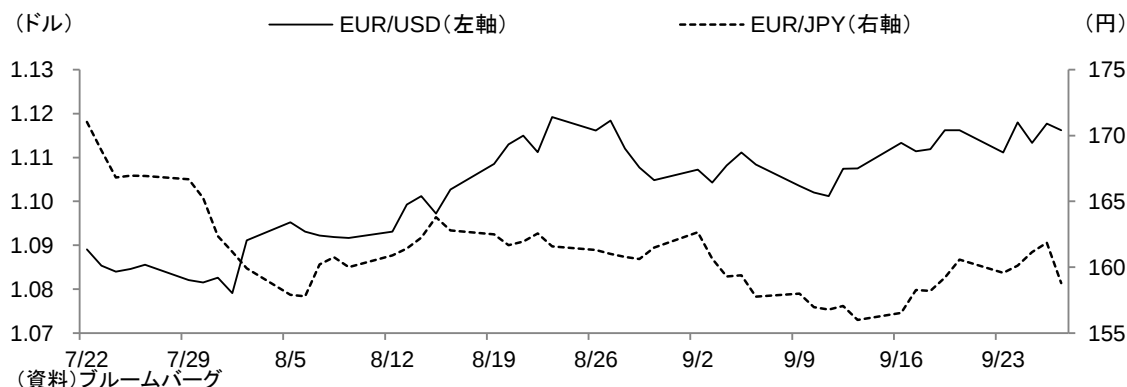
今週のユーロ/ドル相場は現行の高値圏での推移を予想するが、ややユーロが軟化する展開を予想する。具体的にはユーロ/ドル1.1000~1.1200のレンジ内での軟調推移を予想している。背景としては、先週のユーロ圏9月製造業/非製造業PMI(速報)の冴えない結果にも見られるようにユーロ圏の景気減速懸念が浮上していること、また米国の利下げペース加速への期待がやや弱まっていることからドル売りの流れが停滞していることなどを挙げたい。また、ユーロ圏ではインフレ率の低下を受けて、利下げペースの遅れを指摘する声も出てきており、経済指標次第ではECBの利下げペースの加速を期待する向きも出てくるだろう。今週は、1日(火)ユーロ圏9月CPI(速報)、3日(木)ユーロ圏8月PPIの発表が予定されており、ユーロ圏のインフレ動向にも注目したい。一方で、ユーロ/円については、ドル/円の動きに影響を受けやすい展開となりそう。先週は、米国の利下げ期待弱まりなどを受けたドル買い円売りに連れてユーロ/円が上昇していたが、週末には日本の政治動向を受けた円高の進行を受けて、ユーロ/円も大幅反落。円高進行によるユーロ安円高が継続するか見極めたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/23~9/27)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1085 高値 1.1214 終値 1.1166

(対円) 安値 158.65 高値 163.46 終値 158.77



3. 英ポンド

欧州資金部 天沼 幹

(1) 今週の予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3600 182.00 ~ 198.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間のポンド相場は、引き続き対ドルで堅調に推移した。週初は、先んじて発表された仏・独・ユーロ圏9月PMI速報値が市場予想を大幅に下回ったことでユーロが売られ、その流れが英ポンドにも波及し対ドルで急落。その後、英9月PMI速報値が市場予想を下回る数値で発表されるも、織り込み済みで英ポンドは反発した。米9月PMI速報値は製造業で市場予想を下回り、またグールズビー・シカゴ連銀総裁より利下げ見通しに関するハト派コメントが報道されたことも英ポンドの上昇に寄与した。翌24日は、米9月消費者信頼感指数が予想を下回り、米金利も低水準で推移したことから英ポンドは引き続き底堅く推移。明けて25日は米8月新築住宅販売が市場予想を上回りドル高となる。26日になると、中国にて大手国有銀行に対する資本注入の報道が流れ、中国経済の回復による欧州経済へのポジティブニュースと捉えられたか、ユーロや英ポンドも人民元高に追随し、英ポンドは前日の下落を取り戻す形となった。対円では、27日、自民党総裁選がサプライズで石破氏勝利となり、ハト派である高石氏にかけていたポジションが巻き戻り円大幅高となった。午後には米8月PCEデフレーターが発表され、ヘッドラインで市場予想を下回ったことで英ポンドは上昇。週間の高値圏で上値が重くなり、調整しつつ週末に渡った。

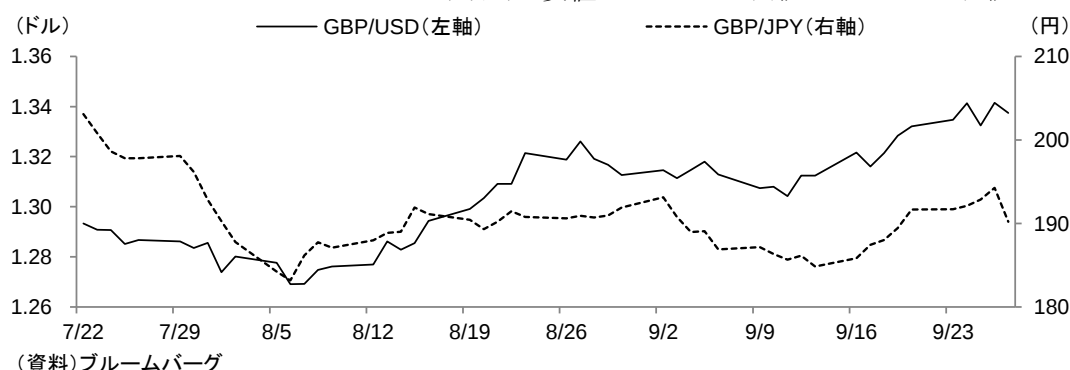
今週は、高値圏で上値重い中、米9月雇用統計に向けて調整するも、最終的には対ドルで強含む展開を予想する。市場の注目は10月4日(金)に発表される米9月雇用統計、とりわけ失業率だ。FOMC声明文では2024年ならびに2025年の見通しは4.4%となっており、9月分の市場予想は前月から変わらず4.2%である。26日に発表された米新規失業保険申請件数は市場予想を下回った。一方で、9月にはハリケーン・フランシーヌや大手ホテル企業によるストライキがあった。例えば、ハリケーンの影響により、テキサスでは一時的に石油生産が20%減少したという報告があがっている。そういった一時的な失業も集計期間が合致する場合、ひとつの項目として集計されデータとして寄与し、ヘッドラインの数値に対してサプライズとして働く可能性は十分にある。失業率が市場予想よりも悪化する場合には、11月大幅利下げ観測に拍車がかかり、一層のポンド高となろう。英経済指標では、取り立てて市場のインパクトが見込まれる材料はない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/23~9/27)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3249 高値 1.3434 終値 1.3372

(対円) 安値 190.02 高値 195.97 終値 190.19



4. 豪ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 松木 悠馬

(1) 今週の予想レンジ: 0.6840 ~ 0.7000 97.00 ~ 100.00 円

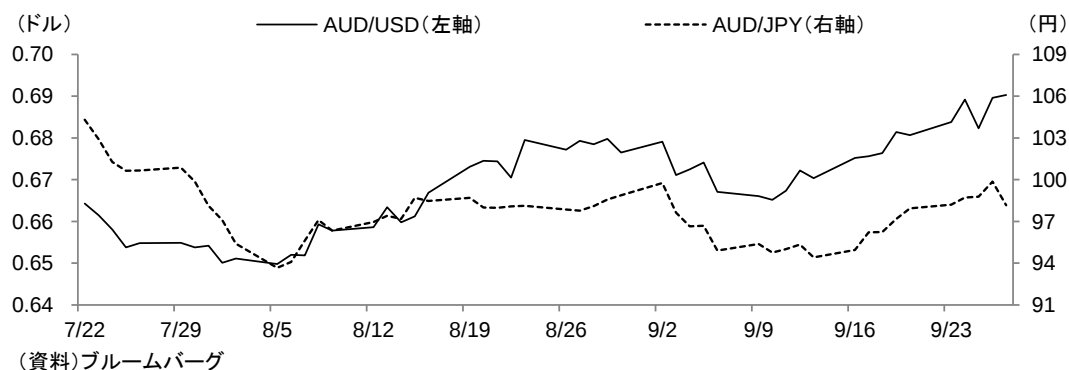
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは上昇した。週初0.68ちょうど近辺でオープンすると、中国が14日物リバースレポ金利を引き下げたことを背景に豪ドルも底堅く推移。複数のFRB高官の今後の利下げを巡ったハト派発言もサポート材料となり0.68台半ばまで上昇。24日、中国人民銀行による広範な景気刺激策の発表やRBAにて政策金利を据え置き、声明文の内容も前回から特段変わらなかったことを背景に豪ドル買いが進行。ブロックRBA総裁の発言を受け弱含む場面もあったが、米9月コンファレンスボード消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことを受けドル売りが進むと豪ドルは0.68台後半まで値を上げた。25日、豪8月CPIが市場予想通り前月から伸びが鈍化したことや月末にかかるドル買いに上値を押さえられ0.68台前半まで下落。26日、中国の景気刺激策を巡る報道を好感した中国株価・通貨及び銅や鉄鉱石など資源価格の上昇にサポートされ0.68台後半まで上昇し引けた。27日、引き続き中国株価上昇や米8月個人支出や米8月PCEコアデフレーターが市場予想を下回ったことが材料視されると週高値となる0.6937まで続伸。結局0.6902で越週した。

今週の豪ドルは米国経済指標の結果を受けドルの動きに振られる公算が高いものの堅調推移は維持されると想定する。30日(月)にパウエルFRB議長発言、中国9月製造業・非製造業PMI、1日(火)は米8月JOLT求人件数、米9月ISM製造業景気指数、3日(木)は米9月ISM非製造業景気指数、4日(金)に米9月雇用統計が予定されている。先のFOMC会合で公表されたドットチャートでは年内2会合で計▲50bp利下げの見通しが示された。FRBが雇用市場の冷え込みへの警戒感を示す中、今週発表される米雇用関連指標次第ではFRBの見通し以上の利下げが意識され一段のドル売りが進み豪ドルはサポートされやすい。特に米8月失業率では上昇が一服しているものの、再度4.3%以上への上昇には前述した動きが強まるだろう。先週のRBAでは全体として前回の内容が踏襲されており、目立った変更は少ない。ブロックRBA総裁会見にて追加利上げを検討されなかったことが明言されたが、利下げ開始に向けたコミュニケーションを明示的に行っていない。利下げ開始に向けて今週は豪ドル由来の材料が出てくることが想定されにくい以上、金融政策の面で豪ドルは対ドルで対照的となる為、堅調推移となりやすい。先週豪ドルのサポート材料となった中国当局による景気刺激策だが、今週は国慶節で祝日になる為、材料として長続きしないだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(9/23~9/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.6799 高値 0.6937 終値 0.6902
(対円) 安値 97.63 高値 100.72 終値 98.16



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。